

OSAKA, KANSAI, JAPAN

EXPO
2025

2025年日本国際博覧会

ジュニア EXPO 2025

教員用指導書 中学校版

KEIRIN
00

競輪の補助事業

ご挨拶

2025年、大阪にて、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）を開催します。

日本は、世界でも国際博覧会の開催経験が最も豊富な国の1つであり、だからこそ、これまでにない、新しい万博を成功させることが期待されています。

かつてないスピードで変化する社会の中で、人々の価値観や生き方がますます多様化し、わたしたちには「幸せとは？」、「自らの可能性を最大限に発揮するためには？」、「それを支える社会はどうあるべきか？」という深遠な問いが投げかけられています。

一方で、技術革新によって誰にも想像できなかったコミュニケーションが可能となりました。

このような進展は、世界中の叡智を集めるのに役立ち、さまざまなアイデアが集まることにより、複雑に絡みあった社会問題の解決につながることを期待できます。

2025年大阪・関西万博は、これまでの万博の概念にイノベーションを起こすような、壮大なSociety5.0実現型の会場として、共に創り上げる「共創」の実現をめざしています。

世界がめざす共通の目標（ゴール）であるSDGsの達成のためには、一人一人が社会問題の解決を自分事として考え、自ら行動していくことが欠かせません。

新学習指導要領においても、持続可能な社会づくりを実現するためには、子どもたち一人一人が、地域の未来などを自らの課題としてとらえ、自分たちができることを考え、さまざまな人たちと協働して解決する資質・能力が求められています。

そこで、わたしたちは、2025年大阪・関西万博を題材に、SDGsを理解し、子どもたちなりにその達成に向けたさまざまな叡智を集め、仲間や多様な人たちと解決のためのアイデアを考えていく「共創」する資質・能力を育成するプログラムを準備しました。

このプログラムが、未来社会を創造する子どもたちの一助になればと願っています。

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会



第1章

教育プログラムの 基礎理解

第1章では、本プログラムのねらいや特長について触れ、
その本質的な意図と目的を説明します。

1. プログラム概要

本プログラムは、
「“すべての”いのち輝くアイデアを提案する」という体験を通して、
万博の意味と価値を理解し、
多様な人々と「**出会う**」「**共有する**」ことによって
問題解決していく、
「**共創**」を体験するプログラムです。

特長1

万博を題材に
SDGsを学ぶ



2025年大阪・関西万博
の考え方

共創

さまざまな人が集まり、
人のネットワークを広げることで
多くの人が協力して
いっしょに未来を
創っていくこと

特長2

中学校EXPO、
地域の発表の場(ジュニアEXPO)で
アイデアを創造・発信

2025年日本国際博覧会

ジュニア EXPO 2025

特長3

新学習指導要領で求められる学び

- 資質・能力を育成するアクティブ・ラーニング
- 探究的な学習(総合的な学習の時間の充実)
- 社会に開かれた教育課程の実現

■ 単元概要

対 象

中学校(全学年)

授 業

10授業(50分×10時限～)

ねらい

【知識・技能】

万博の意味と価値を理解し、さまざまな問題解決の取組とそのため大切にしていることを知る。

【思考力・判断力・表現力等】

さまざまな他者(仲間)との関わりを通して、自分も含むさまざまな他者の「強み」をいかし、他者を巻き込みながら新たな価値を創り出す能力(「共創」する資質・能力)を育成する。

【学びに向かう力・人間性等】

「“すべての”いのち輝く未来社会」のための「SDGsアイデアプレゼンテーション」を考えることを通して、SDGsの達成に不可欠な「誰一人取り残さない」という見方・考え方を獲得し、そのために「自分は何を大切にしていけるのか」を明らかにする。

■ 単元構成

◆ MISSION ◆

未来社会クリエイターとして、「“すべての”いのち輝くSDGsアイデア」を考え、プレゼンテーションする。

本プログラムは、「叢智を集める」⇒「アイデアを生む」という2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）だからこそその学習ステップで単元を構成しています。

企業・団体との「アイデアミーティング」、「中学校EXPO」、「ジュニアEXPOでのプレゼンテーション」など自他の考えの交流を繰り返すことで、協働的な学びの実現と「共創」する資質・能力の育成をねらっています。

全10授業で単元を構成していますが、総合的な学習の時間や学校行事と組み合わせるなど、各学校の状況に応じたカリキュラム・マネジメントで、より深い学びが実現します。

ジュニアEXPOまでのロードマップ

生徒用の万博学習読本（以下生徒用読本）のP.13～14にも同様のロードマップを掲載しています。

「SDGsアイデア
プレゼンテーション」
作りのステップ

世界中から「叢智」を集める

中間発表

ミッションスタート!

授業1 2025年日本国際博覧会
(大阪・関西万博)は、わたしたちと
どのようなつながりがあるのだろう?

万博の意味と価値を
理解する

授業2 SDGsは、わたしたちと
どのようなつながりがあるのだろう?

SDGsの考え方、
「“すべての”いのち輝く」について考える

授業3 「“すべての”いのち輝く未来社会」
のためのあなたのアイデアは?

SDGs達成に向けた取組を
リサーチする

授業4 実社会のSDGs達成に向けた取組が
大切にしていることは?

企業・団体の取組を参考に
自分たちなりのアイデアを考える

授業5 自分たちなりの「“すべての”
いのち輝くSDGsアイデア」は?

自分たちなりのアイデアを整理し、
企業・団体への相談内容をまとめる

授業6 「SDGsアイデア」を実現
させるために必要なことは?
～アイデアミーティング～

アイデアの実現に向けて
意見交換をする

中間発表

●●中学校 ●●グループの
SDGs アイデア

みんなでフードドライブプロジェクト

＜フードドライブとは＞
家庭で余っている食べ物を、たくさんの人が集まる場所に持ち寄って、それらをまとめて、フードバンクに寄付する活動です。

わたしたちも、フードドライブをしよう！

自分たちなりのアイデア

成果物
プレゼンテーション
イメージ

大阪・関西中学校地区の商店街のみなさん 取組を地域に広めよう！

みんなでフードドライブの活動実施に協力してください！

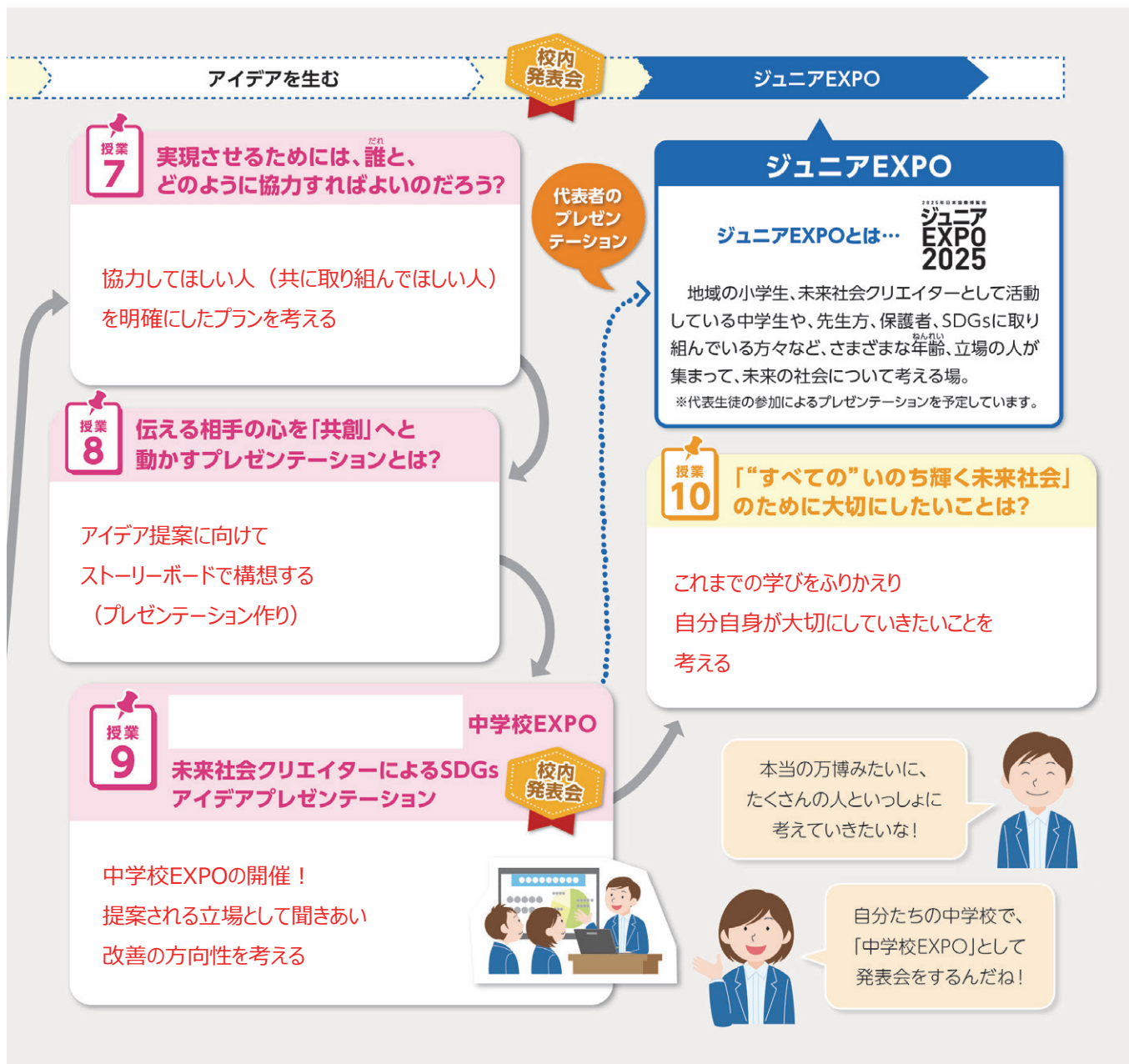
お願いしたいこと

1 場所の提供	2 PRの協力
＜理由＞ ・地域の人が集まりやすい場所で実施したい。 ・学校にたくさんの食品を保管しておくことが難しい。	＜理由＞ ・中学生がPRしやすい年齢層の人（中学生と交流する機会がない人、SNSを使っていない人）に、PRしたい。

対象を明確にしたプレゼンテーション

「強み」「協力」の視点で考える具体的なアイデアの内容

役割分担		
準備	フードドライブイベント	梱包・発送
● SNSでPR ● ポスターの作成 ● 保護者や他の学年にPR ● 会場準備	● 食品の受け取り ● 発送用の費用の募金を集める	● 食品の梱包 ● フードバンクへ発送
わたしたち ● SNSでPR ● ポスターの作成 ● 保護者や他の学年にPR ● 会場準備	ご家庭などで余っている食品があれば、ぜひイベントにもってきてください 地域の「もったいない」を「ありがとう」へ変えよう！	



2. SDGsを実現させる学び ～「誰一人取り残さない」～

本プログラムは、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に基づいています。

「いのち輝く」とは、自分のいのちが輝くだけでなく、世界中の「“すべての”いのち」が輝くことを意味します。これは、SDGsの「誰一人取り残さない」という誓いと重なります。

SDGs 前文より

「我々は、人類を貧困の恐怖及び欠乏の専制から解放し、地球を癒やし安全にすることを決意している。我々は、世界を持続的かつ強靱（レジリエント）な道筋に移行させるために緊急に必要な、大胆かつ変革的な手段をとることを決意している。我々はこの共同の旅路に乗り出すにあたり、**誰一人取り残さない**ことを誓う。」

現在の世界では、多くの人が取り残されており、そのいのちは輝いていないとは言えません。しかし、「誰一人取り残さず、そのいのちを輝かせる」ことは、そう簡単なことではありません。

だからこそ、これからの未来を担う子どもたちには、その重大さを受け止めてほしいのです。

そして、一人では実現しなくとも、さまざまな人と叡智を合わせ、これまでにないアイデアを生み、共に解決に挑む「共創」によって新しい未来を創り上げてほしいと願っています。

SDGsの学習は、決して「17の目標（ゴール）を知ること」にとどまるものではありません。

子どもたち一人一人が、**「誰一人取り残さない」という考え方を身につけ、未来社会を創り上げるための判断にいかす、その資質・能力を育成すること**が求められるのです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「誰一人取り残さない」社会を鮮明にイメージすることは難しいですが、反対に、「誰かをとり残している」という姿は、SDGsの17の目標（ゴール）と対応させると、次のように考えることができます。

1. お金がなくてくらしていけない。
2. 食べ物がない。足りない。
3. 病院や薬がない。
4. 教育を受けることができない。
5. 男女の差。良い教育を受けることができない、良い仕事もない。
6. 飲める水がない。トイレもない。
7. 電気やガスが使えない。
8. 仕事がない。あってもひどい仕事だけ。
9. 道路も電話もパソコンも使えない、お金も借りられない。仕事にならない。
10. いろいろなことが不平等。
11. 家がない。バスや鉄道がない。まちにごみがたくさん。災害に弱いまち。
12. つくる人もつかう人も無責任。
13. 地球温暖化で、災害や被害が増える。
14. 海が汚れ、海の生物がいなくなる。
15. 陸上の生物がいなくなったり、緑がなくなったりする。
16. 戦争や暴力が絶えない。
17. 誰も助け合わない。

これらの姿は、生徒たちにとって、決して自分事としてとらえやすいものではありません。
しかし、**「誰かをとり残していないか」という視点で学校生活・教室を見る**ことができたならば……

- 学級のレクリエーションや席の決め方は……
- 班活動や体育祭のルール、合唱コンクールの自主練習のスケジュールの決め方は……
- 盛り上がる話題や笑いのネタ、学級暗黙のルールや慣習・学級文化は……

子どもたちは、自分たちの問題として、SDGsの本質を考え、話しあい、乗り越えていくことができるでしょう。

身近にいる先生方だからこそ、子どもたちに身近な題材として、日常生活の場面を切り取って提示するなど、**SDGsを達成する本当の学び**が実現するようご支援いただきたいと願っています。

3. 授業のはじめに

本プログラムでは、効果的に授業を実施していただくために、さまざまな教材を準備しています。
第2章で紹介する指導案を参考に、各学校・先生方の授業計画に沿って自由にアレンジしてご活用ください。

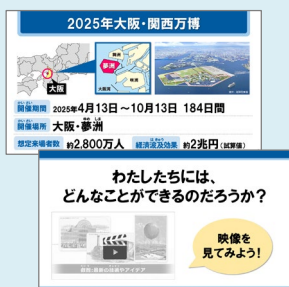
【教員用指導書】

※本書



- 授業1～10の指導案。
 - 各授業で使用する生徒用読本のページ解説。
 - 教材活用・授業実施のポイント。
 - P.35 指導参考資料のページ。
- ※授業計画づくりにぜひ、ご活用ください。

【スライド教材】



- 授業1/2/ 6/9で使用。
※すべての授業にスライド教材はありません。
- 授業1/2で使用するスライドには、映像教材付。
※事前に教室で再生と音声出力をご確認ください。

【万博学習読本】

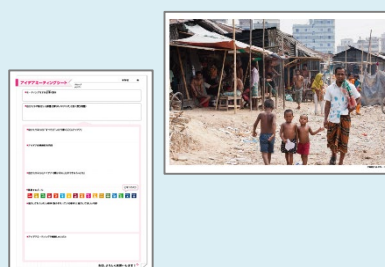


- プログラムを通して使用する、授業1～10に沿ったワークブック形式の読本。
- 万博について、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）について、SDGsについてなどの情報を掲載。

【教材データ】

授業の実施形態により必要に応じて印刷して配付できるよう、PDFデータを準備しました。

- 授業2で使用 掲示用写真データ
- 授業5で使用 アイデアミーティングシート
- 授業6で使用 アイデアミーティング記録用紙
- 授業7で使用 SDGsアイデア共創プランシート
- 授業9で使用 中学校EXPO記録用紙





第2章

ジュニアEXPO2025

第2章では、それぞれの授業詳細について説明します。

全10授業の指導案として準備していますが、各学校が今まで取り組んできた学習活動や学校行事、生徒の状況に応じ、自由にアレンジして授業進行をしていただいて構いません。

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）は、わたしたちとどのようなつながりがあるのだろうか？

授業のねらい

- 万博が社会に与える影響を知り、万博への興味・関心を高める。
- 万博についての映像教材を視聴し、万博がそれぞれの時代の人たちが思いえがいた未来の姿であることを知り、2025年大阪・関西万博へ期待感を高める。

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 15分	1.万博・博覧会に出展されたものとわたしたちの生活とのつながりを知る 2.ねらいをとらえる	❓ 問いかけ 万博って何だろう？ 万博とわたしたちには、どのようなつながりがあるのだろうか？ ・生徒用読本P.1～2のクイズを通して、これまで万博・博覧会に出展されたものが今のわたしたちの生活と深く関わっていることや、今ではわたしたちの生活において当たり前になっているものが、万博がきっかけで発展してきたことを確認する。 ・2025年大阪・関西万博が開かれることを伝え、本時のねらいを伝える。	・プログラムの導入、生徒用読本1章（01）は「万博（万国博覧会）とSDGs」。 - 問いは、<u>万博・SDGsは、わたしたちにとってどんな意味をもつのだろうか？</u> ・出展されたものは、その当時の最先端の技術であったことを伝え、それらが現代ではどのようなになっているのか考えさせるとよい。
ねらい：2025年に開催される、2025年大阪・関西万博について知る。			
展開① 5分	3.博覧会の歴史から、社会とのつながりを知る	❓ 問いかけ これまで、どのような万博・博覧会が開かれてきたのだろうか？ ・生徒用読本P.3～4の年表を活用し、万博・博覧会や出展されたものと社会との関係に注目させ、万博への出展は社会への提案であり、それによって社会に大きく影響を与えていることを確認する。	・生徒用読本P.3～4の年表にある「万博のテーマの移り変わり」に着目させる。
展開② 25分	4.日本で開催された万博のテーマの移り変わりを知り、2025年大阪・関西万博についての興味・関心を高める	❓ 問いかけ 2025年大阪・関西万博は、どのような万博なのだろうか？ ・生徒用読本P.5～6を活用し、日本でこれまでに開催されてきた万博とそのテーマの移り変わりを伝え、その時々社会に応じたテーマが設定されてきたことを確認する。 ▶ 映像教材 『万博がめざす未来』（約4分） ・大きく変化し、価値観もさまざまに変化している現代社会において、2025年大阪・関西万博は「“すべての”いのち輝く未来社会」をめざしていることを確認する。 ❓ 問いかけ 「“すべての”いのち輝く未来社会」のために、どのようなことが計画されているのだろうか？ ・2025年大阪・関西万博は、SDGsの達成に向けて、これまでにない新しい万博のかたち、「さまざまな参加者がいっしょに創り上げる『共創』」をめざしていることを伝える。	・スライド教材を活用するとよい。（本時で使用する映像教材付） ・2025年大阪・関西万博テーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。本プログラムでは、SDGsの「誰一人取り残さない」という考え方にに基づき、「すべての」という言葉をつけている。 ・2025年大阪・関西万博については、生徒用読本P.7～8の資料のページを活用して補足説明するとよい。
まとめ 5分	5.まとめとふりかえり	・2025年大阪・関西万博がめざす「共創」と同じように、自分たちも「“すべての”いのち輝く未来社会」を考えていこうという意欲を高める。 🗺️ ロードマップ 今日の学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましよう。 ・ロードマップの授業1ふりかえりを記入させる。	★万博・2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の価値 ・未来社会に向けて考える場であること ・世界中から最新の叢智が集まること ・さまざまな人と共に新たなアイデアを生む「共創」の場であること - など

■ スライドおよび映像教材の概要

- 2025年大阪・関西万博が開催される
- ・ プログラムのスタートに、意欲を高めるためにお使いください。



▶ 映像教材 『万博がめざす未来』（約4分）

それぞれの時代が思いえがく理想の未来に対して、さまざまな提案がなされ、世界中の関心を集める万博。2025年大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を紹介し、2025年の開催に期待を高める。



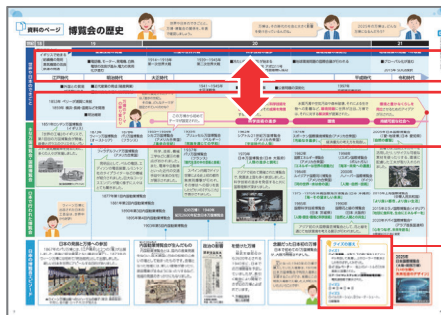
【映像貼付スライド】



■ 生徒用読本 授業 1



クイズを通して、わたしたちの生活を便利で豊かにするさまざまな技術が、万博で提案されてきたことを確認しましょう。



！ **ポイント** 歴史のできごとと関連付けて、万博のテーマの移り変わりとのつながりに気づかせましょう。

クイズ1～3の答え



ここでは、日本で開催された5つの万博について紹介しています。テーマは、「科学技術」から「環境」へと移り変わり、2025年大阪・関西万博は、SDGsを題材とします。

映像視聴（メモ欄）



2025年に開催される、2025年大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、共にアイデアを創る「共創」をめざします。

クイズ4～5の答え

授業のねらい

- SDGsの達成の重要性と必要性を理解する。
- 映像教材を視聴し、**未来社会クリエイターとして、「“すべての”いのち輝くSDGsアイデア」を考え、プレゼンテーションする**というミッションと、「ジュニアEXPOでアイデアをプレゼンテーションする」というゴールをとらえる。
※イベント「ジュニアEXPO」は各学校から選抜していただいた代表生徒のみの参加を予定しています。

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 20分	1.「いのち輝く」を考える		
	❓ 問いかけ 「いのち輝く」とはどういうことだろう？		
		・自分の「いのちが輝いている」と感じる場面、そうでないと感じる場面をふりかえらせる。	・「いのち輝く」についてイメージが湧きづらい場合は、本誌P.16「具体的な姿」を例示するとよい。
	❓ 問いかけ 「世界のいのち」は、輝いているのだろうか？		
	💡 ワーク 世界中「“すべての”いのち輝く」について考えてみましょう。		
		・生徒用読本P.9～10の写真から、どのようなことが読み取れるかを考えさせる。	・生徒用読本に掲載している写真についての説明は、本誌P.15参照。
	2.SDGsについて知る	・世界中で「多くのいのちが輝くことができていない」理由を考えて書かせ、「可能性が奪われているいのち」や「格差・自分だけがよければよいという考え方の問題」に気づかせる。	・生徒用読本P.12に掲載の、世界中の「いのち輝く」ことができない人たちが多く取り残されている理由について参照させるとよい。
	3.ねらいをとらえる	・SDGsは「誰一人取り残さない」世界を実現するために設定されていること、2025年大阪・関西万博のテーマと重なることを確認し、本時のねらいを伝える。	
	ねらい：「“すべての”いのち輝く」ための世界共通の目標（ゴール）であるSDGsとわたしたちのつながりを考える。		・本時では、SDGsが発展途上国だけの目標ではないことに気づかせることもねらいとしている。
展開 25分	4.わたしたちの未来からSDGsとのつながりを考える		
	❓ 問いかけ わたしたちの生活とSDGsはどのように関わっているのだろうか？		
	💡 ワーク 3人の架空の未来とSDGsとのつながりを考えてみましょう。		
		・生徒用読本P.11の事例について、どのSDGsとつながるか、またそう考える理由を考えさせる。	★プログラムのヒント ・自分の未来について「こんなふうにいのち輝いていたい！」とイメージさせ、その未来の姿とSDGsのつながりについて考えさせてもよい。
	5.単元の課題をとらえ、成果物の見通しをもつ	・SDGsは、遠い世界の問題を考えるものではなく、身近な生活につながることで、自分も含め世界がめざす目標（ゴール）であることを改めて確認する。	・スライド教材を活用するとよい。（本時で使用する映像教材付）
	❓ 問いかけ 「“すべての”いのち輝く未来社会」をめざす2025年大阪・関西万博が開催される。わたしたちは、どのようなことができるだろう？		
		・映像教材を視聴させる。	・ジュニアEXPOが、大阪・関西の人たちに直接プレゼンテーションできる機会であることを確認し、そのアイデアを考えるということを伝えとよい。
	🎥 映像教材 『共に創る「“すべての”いのち輝く未来社会」』（約2分30秒）		
		・ミッション「 <u>“すべての”いのち輝くSDGsアイデア</u> 」を考え、 <u>プレゼンテーションする</u> を確認する。	
		・ゴール達成までのロードマップを確認し、ふりかえり欄で学びを記録していくことを説明する。	
	6.まとめとふりかえり	・授業をまとめる。	★プログラムを通して伝えたい大切なメッセージ ・世界中「“すべての”いのち輝く」ためには、「誰一人取り残さない」という考え方が不可欠であることをおさえる。
	🔄 ふりかえり あなたが、SDGsについてわかったことは？		
まとめ 5分	📌 ロードマップ 今日の学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましょう。		
		・ロードマップの授業2ふりかえりを記入させる。	

■ スライドおよび映像教材の概要

● わたしたちには、どんなことができるのだろうか？（ミッションの提示）

▶ 映像教材 『共に創る「すべてのいのち輝く未来社会」』（約2分30秒）

生徒に「共に“すべてのいのち輝く未来社会”について考えよう。」と誘う映像教材。

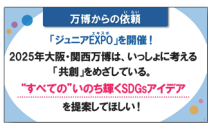
ジュニアEXPOを開催することを伝え、単元を通したミッション**未来社会クリエイターとして、「“すべてのいのち輝くSDGsアイデア”を考え、プレゼンテーションする**ことを提示する。



【映像貼付スライド】



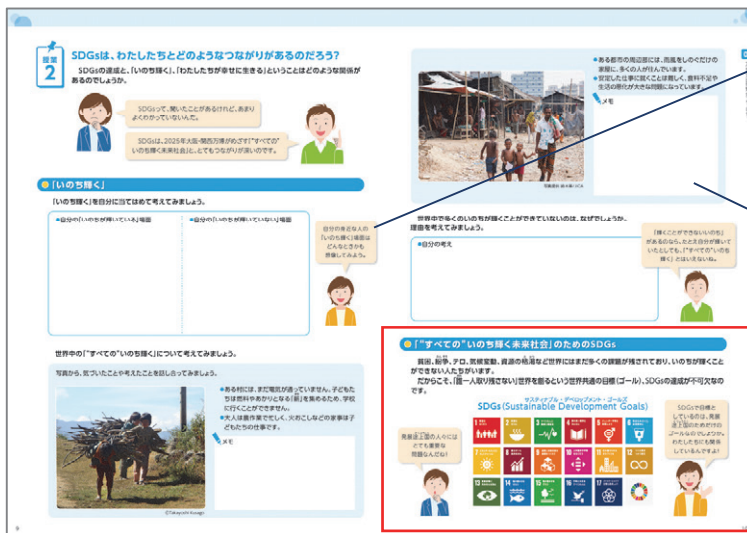
● 単元のねらい（万博からの依頼）の確認・探究の過程の提示



！ ポイント

本プログラムでは、万博の特長を模した探究のステップでプレゼンテーションを作ります。

■ 生徒用読本 授業 2



「いのち輝く」について、まずは自分に当てはめて考えさせます。

フォトランゲージで、「“すべてのいのち輝く”社会を創ることの必要性に気づかせます。掲載している写真の説明については、本誌P.15を参照ください。

！ ポイント

SDGsの「誰一人取り残さない」という考え方を確実におさえましょう。

3人の架空の未来をモデルに、わたしたちの生活とSDGsとのつながりに気づかせます。

！ ポイント

「どの目標（ゴール）につながるか」という正解が重要なのではなく、「自分たちの生活が、世界のさまざまな問題とつながっている」という考え方を獲得することが重要です。

！ ポイント

SDGsの17の目標（ゴール）それぞれについて、具体的に「いのちが輝けていない姿」として提示しています。生徒が、「多くの人を取り残されている」現状をイメージできるよう活用ください。また、これら一つ一つの姿への思い（「1.貧しさをなくしたい」など）が、目標（ゴール）として提示されていることをおさえましょう。



■ フォトランゲージワーク写真の概要

本プログラムでは、「誰一人取り残さない」という考え方をおさえるために、生徒用読本に「貧困」「教育・格差」などの問題が読み取れる写真教材を準備しました。

このほかにも、「環境・エコ」「生物多様性」など、次の授業（授業3）で、生徒がSDGsのさまざまな目標（ゴール）について考えたいと思えるような写真教材を提示することも可能です。授業計画に応じてアレンジしてください。



©Takayoshi Kusago

写真教材の意図

教育の機会が奪われ、
「いのち輝く」可能性が狭められている。

●「薪集め」 ブータン王国

- ・ブータンのある村では、まだ電気が通っていなかったり、故障が多かったりして、一般の家庭では薪を使っています。
- ・ブータンの経済は、農業に大きく依存しており、子どもたちは、農作業で忙しい家族を手伝うため、薪集め、火おこし、そうじ、洗濯、料理などをします。
- ・学校までは遠く、なかなか通うことができない子どもたちも多くいます。現在、ブータンの識字率は約6割で、その中でも男女間の差が見られます。田舎に住んでいることもあり、人口の約30%が貧困層です。

世界には、さまざまな「暮らし」があり、SDGsに掲げられている目標につながるさまざまな問題を抱えています。その問題は、それぞれがバラバラなものではなく、つながっていることが多くあります。

ここでは、子どもの写真を準備しました。生徒が、「もし自分だったら」と、写真に写っている年齢の人の立場で「いのち」について考えることができるように、声をかけるとよいでしょう。



写真提供：鈴木革/JICA

写真教材の意図

格差の問題。自分だけがよければよい、
という考え方により、解決されない問題がある。

●「ダッカ市内のスラム地区」 バングラデシュ人民共和国

- ・バングラデシュでは、農村部の暮らしに苦しんで、都市部に流入する人が多く、都市周辺部にスラム地区が形成されています。
- ・しかし、都市部で十分な仕事に就くことができません、より貧困になってしまっています。貧困層は川沿いに簡易の家屋を建てることが多く、モンスーンによる豪雨などの自然災害の被害を受けやすいことも、安定した生活を送ることができない原因の一つと言われています。
- ・一方で富裕層も存在し、都市部には欧米諸国のファストフードチェーンが出店するなど、格差が生じています。

一度貧困に陥ると、なかなか抜け出すことができないと言われています。

ここでは、背景にマンションが見える写真を準備しました。格差の問題は、貧困層の人たちが自分の力で解決することが難しく、差が広がる一方であることが大きな問題です。「貧困層ではない人たち」が、この問題を自分事としてとらえ、貧困の連鎖を断ち切る行動をすることが求められています。

「“すべての”いのち輝く・誰一人取り残さない」ことを自分事として考えるために

プログラムの基本教材としては、世界の写真から考えるワークを準備しました。

しかし、本当に生徒たちが自分事としてとらえるには、生徒たちに身近なシーンを提示することが有効です。

例えば……

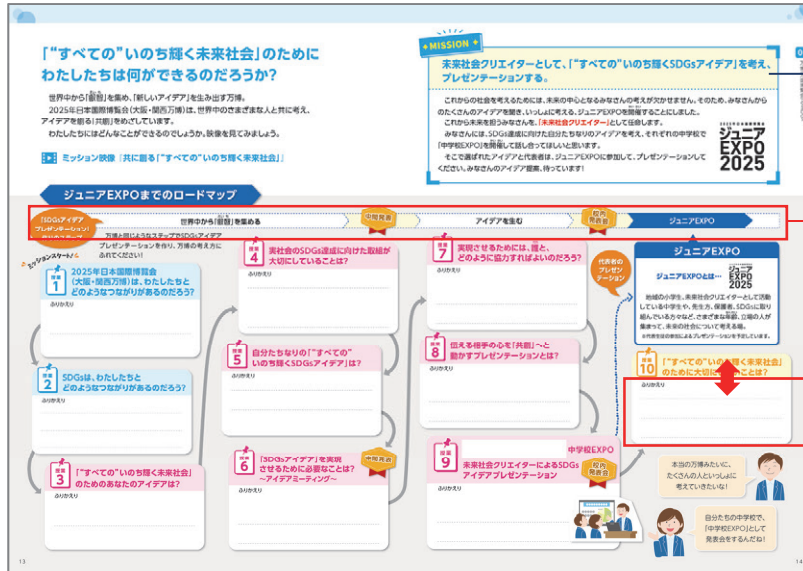
●グループワークで、机をしっかりとくっつけていない

●休んでいるからといって、勝手にその人の机にモノを置く

など、「誰かを取り残していないか」という視点で学校生活・教室を見ることができるよう、先生方オリジナルのアレンジを期待いたします。

■ 生徒用読本 ふりかえり記録ページ

このページは、プログラムの全10授業の全体像と流れを可視化してとらえやすくすると共に、毎回のふりかえりを1枚に記録することで、自分がどんなことに気づいたり、どのように考えたりしてきたのか、自己認知させることをねらいとしています。



映像をふりかえり、「**“すべての”いのち輝くSDGsアイデア**」を考えることと、ゴール「**ジュニアEXPOでプレゼンテーションする**」ことを確認しましょう。

！ポイント

本プログラムでは、万博の特長を模した探究のステップでアイデアを創ります。

！ポイント

毎回のふりかえりでは、「本時の問い」に対して自分は何かわかったのか、どのように感じたり考えたりしたのかを書かせましょう。

■ 「いのち輝く」について

「いのち輝く」について、生徒はすぐにイメージを湧かせることができないかもしれません。

次のような具体的な姿を例示して、自分に引きつけて考えさせましょう。

また、「今」だけでなく「未来」でいのちが輝く姿を想像させることで、さまざまな人の（どのような年齢・立場であっても）「いのち輝く」ことの重要性和必要性に気づかせることができます。

生徒のいのちが「今」輝く例

●放課後、友達と好きなことに熱中する。

【具体的な姿イメージ】

最近友達と熱中しているのは、ダンス。鏡を使って練習できる部屋が無料で使える公民館に集合。動画を見ながら夢中になっていると、すぐに塾の時間になってしまう。「だんだん合ってきた！お互い自主練だね！」と言って、心地よい疲れと共にまたみんなに会えることを楽しみに家に帰った。

●趣味・特技に思う存分取り組み、人の役に立つ。

【具体的な姿イメージ】

昔から絵をかくのが好きで、夢中になって気づけば時間を忘れてしまうこともしばしば。
週末には、いろいろな美術館・展覧会に連れて行ってもらえるのがとてもうれしい。先日、かいた絵を、祖母にプレゼントしたら、とても喜んでもらえてよかった。

ほかに、

- 勉強や部活動など、学校生活をがんばる。
- 地域の活動に積極的に参加し、交流する。
- 将来、生き方の実現のために、習い事に打ち込む。などが考えられる。

生徒のいのちが「未来」で輝く例

●夢をかなえて活躍する。

【具体的な姿イメージ】

小さい頃から、世界で活躍する仕事に憧れていた。大学時代に国際ボランティアをしたときに、開発が環境破壊につながる問題に直面し、何とかしたいという思いが高まった。
それが今の再生可能エネルギー開発の仕事につながっている。

●地域の少年野球チームでスポーツを教える。

【具体的な姿イメージ】

今の楽しみは、週末に少年野球チームで、子どもたちと野球の練習をすること。
小学生の頃から、30年間続けた野球。今はコーチをしている。保護者の方からも好評で、今では家族ぐるみのつきあいに。
この夏は、地区大会出場を目標に、子どもたちといっしょにがんばっている。

ほかに、

- 休日に家族（子どもたち）と公園で遊ぶ。
- 趣味で制作した作品をSNSで発信し、世界とつながる。などが考えられる。

「“すべての”いのち輝く未来社会」のための あなたのアイデアは？

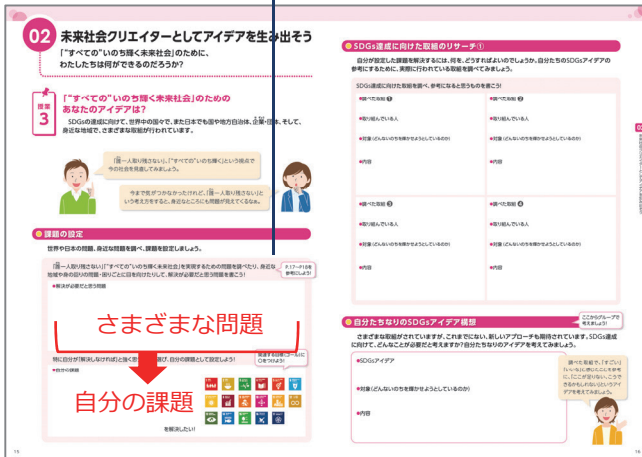
授業の ねらい

- 世界や日本の問題、身近な問題を調べ、自分が「解決しなければ」と強く思う課題を設定する。
- 調べたことを参考に、自分たちなりの「SDGsアイデア」（自分たちなりのプレゼンテーションの基本となる考え）を創る。

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 5分	1.ねらいをとらえる	・ 前時で確認したミッション「 <u>“すべての”いのち輝くSDGsアイデア</u> 」を考え、 <u>プレゼンテーションする</u> をふりかえり、本時のねらいを伝える。	・ 生徒用読本2章（02）「未来社会クリエイターとしてアイデアを生み出そう」に入ったことを伝える。 問いは、「 <u>“すべての”いのち輝く未来社会</u> 」のために、 <u>わたしたちは何ができるのだろうか？</u>
展開 ① 15分	2.自分の課題を設定する	❓ 問いかけ あなたが、「解決したい」と感じる問題は？ 💡 ワーク 身近な問題、世界や日本の問題を調べ、自分の課題を設定しましょう。	・ 生徒用読本P.17～18を参考にさせるとよい。
展開 ② 25分	3.SDGs達成に向けた取組をリサーチする①	❓ 問いかけ 実社会では、どのような取組がされているのだろう？ 💡 ワーク 自分が設定した課題を解決するには、何を、どうすればよいのでしょうか。実際に行われている取組を調べてみましょう。	グループワークのポイント ・ 同じ課題を設定した生徒同士、同じ目標（ゴール）をめざす生徒同士でグループを組ませるとよい。 ・ 生徒用読本P.16は4つの取組が書き込めるようになっている。個人でいくつか調べさせてもよいし、グループで分担して調べさせてもよい。
	4.自分たちなりのSDGsアイデアを構想する	❓ 問いかけ SDGs達成に向けて、あなたは、どんなことが必要だと考える？ 💡 ワーク SDGs達成に向けた、自分たちなりのアイデアを考えてみましょう。	・ ここでのアイデアは、まだ「思いつき」程度の浅いものや、働きかける対象も「みなさん」「国・地方自治体」などさまざままでよい。この後の授業で、実現性・提案性の視点でブラッシュアップしていく。
まとめ 5分	5.まとめとふりかえり	🔄 ふりかえり 自分たちなりに、どのようなアイデアを考えることができただろう？ 🗺️ ロードマップ 今日の学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましょう。	・ アイデアについてさらに考えていくことを伝える。 ・ ロードマップの授業3ふりかえりを記入させる。

■生徒用読本 授業3

ミッションを受けて、自分の課題を設定させます。
まず、世界・日本の問題に目を向けさせ、その中から自分が「解決しなければ」と強く思うものを課題として設定させます。



生徒用読本P.17～18に、世界と日本の問題を準備しました。問題は多く存在し、解決のためにさまざまなアイデアが必要であることに気づかせましょう。また、掲載されている以外の問題について調べさせてもよいでしょう。

※事例として掲載している問題は、ごく一部です。

※目標（ゴール）10は、世界と日本とを分け隔てなく考えるために、併記しています。

授業の発展アイデア

生徒がより自分事として探究していくために、授業3のワークには、以下のような発展アイデアが考えられます。ぜひ、授業計画に応じてアレンジして、プログラムを進行してください。

●身近な地域や身の回りの問題・困りごとに目を向けさせて、自分事としてとらえさせる

世界の問題、日本の問題は、生徒によっては壮大に感じてしまい、自分事としてとらえるのは難しいかもしれません。

その場合は、自分たちが住む地域や、学校での生活など身近な問題について考えてもよいでしょう。

そのときには「不平や不満」ではなく、「誰一人取り残さない」という考え方で、どのような問題が生じているのかを考えさせることが大切です。

また、どの地域にも、問題解決や困りごとの解消に取り組む人たちはいるはず。それに気づくことは、この後のプログラム有効になる「地域の強み（よさ）を見出す」活動や、「自分たちが協力してほしい相手・提案したい対象」を見つけることにもつながります。



【ワークアイデア】
生徒用読本P.17～18を拡大印刷し、「地域の問題」を付せんなどに書き出す。

●ビジョン（実現したい姿や状態）から課題を設定させる

本プログラムでは、まず問題を調べ、その中から自分が解決しなければと強く思うものを課題として設定します。

もう一つのアプローチとして、まず自分が「実現したい社会の姿や状態＝ビジョン」をえがき、次に今の姿や状況を考えたり、調べたりする活動でさまざまな問題をとらえ、最後に、その差から課題を設定させる方法もあります。

①ビジョンをえがく

③差から課題を設定する

②現状の問題をとらえる

授業のねらい

- （アイデアミーティングに参加する）企業・団体のSDGs達成に向けた取組を調べることを通して、アイデアを実現させるには「強みをいかす」と、「さまざまな人と協力する」という考え方が重要であることを理解する。
- 自分たちなりのアイデアを、「強みをいかす」と「さまざまな人と協力する」という視点で、実現性・提案性の高いものへと検討を深める。

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 5分	1.ねらいをとらえる	・前時では、自分たちなりのアイデアを考えることができたことをふりかえる。 ・実社会では、国・行政はもちろん、さまざまな企業・団体がSDGs達成に向けた取組をしていることを紹介し、本時のねらいを伝える。	・SDGsの達成には、企業・団体などがもつ新しい技術や、イノベーションアイデア、そしてしくみを活用したアプローチが期待されており、多くの企業がビジネスにSDGsの視点を取り入れ、さまざまな取組が進められていることを紹介するとよい。
展開① 15分	ねらい：企業・団体のSDGs達成に向けた取組を調べて参考にし、自分たちなりのアイデアを検討する。		
	2.企業・団体のSDGs達成に向けた取組事例から「強みをいかす」という考え方を理解する	？ 問いかけ それぞれの企業・団体は、どのような取組をしているのだろう？ ！ ワーク それぞれの企業・団体は、どのような取組をしているか、線で結び、なぜそのような取組をしているのか、考えてみましょう。 ・生徒用読本P.23～P.26を参考にさせ、企業・団体と取組の組みあわせを考え、線でつなげる。 ・どの企業・団体も、それぞれの「強みをいかした取組をしている」ことを確認する。	・生徒用読本の取組事例は、ジャパンSDGsアワード受賞の企業・団体などから、「強みをいかし」「さまざまな人と協力する」ことがわかりやすい事例を選び掲載している。
	3.自分たちなりのSDGsアイデアを検討する	？ 問いかけ 自分たちのアイデアを、本当に実現させるためには？ ！ ワーク 授業3で考えた、自分たちなりのSDGsアイデアを、実現性の高いものにしていきましょう。 ・自分たちなりのSDGsアイデアが実現している姿と、その実現のために必要なことを書き出させる。 ・自分たちにできることとして、解決にいかせる自分たちの「強み」を書き出させる。 ・協力してもらう必要があることを考えて書き出させる。	★プログラムのヒント ・ほとんどの場合、「自分たちには解決にいかせる強みがない」ことが予測される。本プログラムでは、その「強み」をもつ「協力してくれる人」を探し、提案を考えていくが、他力本願にならないよう、まずは「自分たちは何ができるか」を考えさせるとよい。
	4.SDGs達成に向けた取組をリサーチする②	？ 問いかけ 実際に取り組んでいる人たちは、「どんな強み」をいかし、「どんな人たちと協力して」いるのだろう？ ！ ワーク 企業・団体が「どんな強み」をいかし、「どんな人たちと協力して」取り組んでいるのか、リサーチしましょう。 ・インターネットなどを活用して企業・団体のSDGs達成に向けた取組を調べさせる。	・参加企業・団体は、【インフラ】【サービス】【モノづくり】【第一次産業】【研究開発】などの分野を想定している。
展開② 25分	グループワークのポイント ・参加する企業・団体が決まっている場合は、それらの取組についてグループで分担して調べさせるとよい。		
まとめ 5分	5.まとめとふりかえり	・授業をまとめる。 🔄 ふりかえり 「自分たちなりのSDGsアイデア」を実現させるためには、どんな「強みをもっている人たち」に協力してもらうことが必要だろう？ ・チャレンジ課題として、身近な地域に目を向け、「強み」をもっている人たちを見つけ、「協力してもらいたい相手」を想定しておくよう伝える。 🗺 ロードマップ 今日の学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましょう。 ・ロードマップの授業4ふりかえりを記入させる。	★プログラムのヒント ・本プログラムでは、「地域でのジュニアEXPOで実際に提案すること」をめざしてアイデアを考えていく。そのため、「協力を依頼する人たちは、架空の対象ではなく、地域から候補」を探させるとよい。

20

授業の発展アイデア

生徒が地域でより主体的に探究していくために、授業4と授業5の間に、以下のような発展授業のアイデアが考えられます。ぜひ、授業計画に応じてアレンジして、プログラムを進行してください。

●アイデアを実現するために「協力してほしい人」

本プログラムの特長は、ジュニアEXPOを最終ゴールとして「自分たちなりのアイデアを地域社会に向けて発信する」という目的意識でアイデアを検討していくことです。

これまで、SDGsや世界をテーマにした学習で、アイデアを考えたりプレゼンテーションを成果物としたりする場合は多くありましたが、机上の空論に終始したり、対象がぼやけてしまったりすることも少なくありませんでした。

本プログラムの成果物は、対象を「共に取り組んでほしい人（協力してほしい人）」と明確にし、目的を「その人の心を「共創」へと動かすプレゼンテーション」と具体的にしています。学校内での発表会（中学校EXPO）で、生徒相互に聞きあう場面では、「お互いに提案される人の立場で聞く」活動を位置づけています。

ですから、授業4～授業5で考えるアイデアは、遠い世界の人たちや直接話すことが難しい人たちとの協力ではなく、身近な人たちや地域の企業・団体との協力について考えることを推奨します。

●身近な人たちや地域の企業・団体がもつ、よさ・「強み」

生徒が、自分たちなりのアイデア実現のために協力してくれる人たちをすぐに具体的に探し出すことは難しいでしょう。日常、身近な人たちや地域の企業・団体のよさ・「強み」を意識して過ごしていないからです。

そこで、世界・日本・地域の問題解決につながるよさ・「強み」という視点で、身近な人たちや地域の企業・団体を調べる活動を取り入れるとよいでしょう。

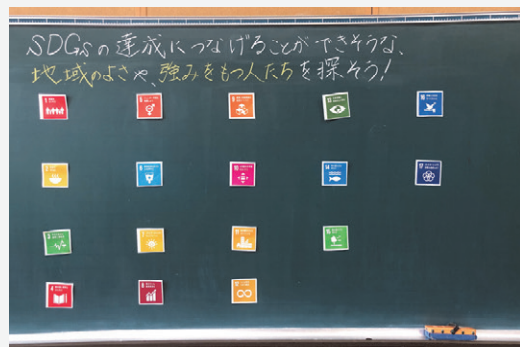
これまで気がつかなかった自分たちの地域のよさ・「強み」に気づくことにもつながります。

●発展授業（例）

授業のねらい

- 世界・日本・地域の問題解決につながるよさ・「強み」をもった身近な人たちや地域の企業・団体を知り、自分たちなりのアイデアを実現するために協力してほしい人たちの参考にする。

学習内容・活動	教員の支援
●解決しなければならない問題を確認する ●解決につながるよさ・「強み」をもつ人々を探す ●自分たちなりのアイデアを実現するために協力してほしい相手を探す	・生徒用読本P.17～18を活用し、世界・日本・地域の問題を確認する。 ※地域の問題については、本誌P.18の授業の発展アイデアを実施するとよい。 ・黒板にSDGsの17の目標（ゴール）を書き出す。 ？ 問いかけ これらの問題解決につながるよさ・「強み」をもった人たちは、わたしたちの身近な地域にはいないのだろうか？ ！ ワーク 身近な人たちや地域の企業・団体を調べ、よさ・「強み」を書き出し、つながる17の目標（ゴール）を考えて、黒板に貼り出してみよう。 ・グループや個人でリサーチを行い、見つけた企業・団体や取り組む人、よさ・「強み」をA5程度の大きさの用紙などに書き出させる。 ・よさ・「強み」をいかすことで、どのSDGsの目標（ゴール）につながるか考え、黒板に貼り出させる。 ・協力してほしい相手を考える際の参考にさせる。



■生徒用読本 SDGs達成に向けた取組事例

生徒用読本P.23～26には、企業・団体の取組と、日本の取組（SDGsアクションプラン2020）を掲載しています。
企業・団体の取組については、「強みをいかす」、「協力して実施する」ことが読み取りやすい資料になっています。

[illegible]

授業の
ねらい

- 自分たちなりに考えている「“すべての”いのち輝くSDGsアイデア」を、アイデアミーティングでプレゼンテーションするために、アイデアミーティングシートにまとめる。
- 実際に取組をしている企業・団体に直接聞きたいこと・相談したいことを明らかにしたり、企業・団体の取組についてさらに詳しく調べたりすることを通して、アイデアミーティングへの意欲を高める。

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 5分	1.ねらいをとらえる	・前時では、企業・団体の取組を調べ、自分たちなりのアイデアを「強み」「協力してほしい人」の視点でさらに考えることができたことをふりかえり、本時のねらいを伝える。	
	ねらい：アイデアミーティングでプレゼンテーションするアイデアミーティングシートを作成する。		
展開 40分	2.アイデアミーティングの流れとねらいをとらえる	・アイデアミーティングについて説明する。	
		ねらい ●自分たちなりの「“すべての”いのち輝くSDGsアイデア」をプレゼンテーションし、アドバイスをもらう ●ほかのグループのプレゼンテーションを聞き、自分たちなりのアイデアの参考にする ●SDGs達成に取り組む人たちから、取組の具体的な方法や大切にしていることを聞く	
	3.自分たちがミーティングで話を聞きたい企業・団体を決める	？ 問いかけ アイデアミーティングをしたい企業・団体は？	・企業・団体との貴重な交流時間を有効に運用するため、 ■資料を事前送付すること ■論点を明確にしておくこと - など、効果的な事前準備について説明するとよい。
	4.アイデアミーティングシートを書く	・自分たちなりのアイデアを考えていくために、アイデアミーティングをしたいと考える相手（第1希望、第2希望）を決め、その理由を書く。	
		！ ワーク 自分たちが直接ミーティングで話を聞きたい企業・団体を決め、どんなことを聞いて、どのようにいかしたいかなどを書きましょう。	
		・アイデアミーティングでプレゼンテーションできるよう、自分たちなりのアイデアを1枚（アイデアミーティングシート）にまとめさせる。 ・直接話を聞くことができる機会をいかし、相談したいことを考えさせる。	・生徒用読本のP.28 アイデアミーティングシートをコピーし、参加する企業・団体に事前送付する。 - 事前に、 ■生徒がどのようなアイデアを考えているのか ■何を相談したいか（どんなアドバイスがほしいか） - などを伝えておく。
まとめ 5分	5.まとめとふりかえり	・授業をまとめる。	
		🔄 ふりかえり アイデアミーティングで伝えたいこと・聞きたいことは？	
		・アイデアミーティングの準備ができたことを確認し、本番への意欲を高める。	
		🗺 ロードマップ 今日の学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましょう。	
		・ロードマップの授業5ふりかえりを記入させる。	

■ 生徒用読本 授業5

アイデアミーティングでプレゼンテーションする内容を記入させます。
解決したいと考えている問題、その解決のための自分たちなりのアイデア、
具体的な内容など、第三者が読んでわかりやすいように、端的にまとめ
させましょう。

アイデアミーティングをしたい企業・団体を記入させます。
理由を書かせることで、生徒の目的意識を高めると共に、先生方がアイデアミーティングのグループ分けをする際にご活用いただけます。

！ ポイント

アイデアミーティングに参加する企業・団体に
事前送付してください。

● アイデアミーティングシート
PDFデータ

- 生徒用読本に記入させるのではなく、
提出用ワークシートとして別紙で準備し
たり、グループワークをさせたりする場
合などは、出力してご利用ください。

「SDGsアイデア」を実現させるために必要なことは？ ～アイデアミーティング～

授業のねらい

- 実社会でSDGsの達成に向けて取り組む企業・団体にプレゼンテーションし、アドバイスをもらうことで、自分たちの考えの足りていなかった部分に気づき、改善のヒントを得る。
- ほかのグループのアイデアや、ほかのグループへのアドバイスコメントを聞くことを通して、自分たちにはなかった考えや新しい視点を獲得する。そして、その価値に気づく。

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 5分	1.ねらいをとらえる	・ 前時に、アイデアミーティングシートを準備したことをふりかえり、本時のねらいを伝える。	・ 本時は50分に限定するものではないので、各学校の計画に合わせて調整してよい。
	ねらい：実社会でSDGs達成に向けて取り組む企業・団体とのアイデアミーティングで、実現に向けたヒントを得る。		・ スライド教材を活用するとよい。
展開 40分	2.アイデアミーティングを実施する	・ ミーティングに参加していただく方の紹介をする。 ワーク 企業・団体の方に、自分たちなりのアイデアをプレゼンテーションし、実現するためのアドバイスをもらいましょう。 ・ アイデアミーティング 進行例（ミーティング時間35分+移動5分の場合） ①各グループのプレゼンテーション 3分 +各グループへのアドバイス 2分 ※5分×5グループで25分 ②企業・団体の取組紹介 10分 ・ お礼と挨拶をさせる。	グループワークのポイント ・ 各企業・団体に対して5人～6人×5グループ程度でアイデアミーティングを実施するとよい。 ・ 企業・団体の取組紹介では、「強み」をどのようにいかしているか、「共に取り組む人たちとの協力の仕方」を中心に、アイデアを実現させ、実施するために大切なこと、不可欠なことを紹介いただけるよう準備をお願いするとよい。
まとめ 5分	3.まとめとふりかえり	・ 授業をまとめる。 ふりかえり 実社会で取り組む人たちは、どんなことを大切にしていたらう？自分たちなりのアイデアの実現に向けて、必要なことは何だろう？ ・ 実社会で取り組む人とのアイデアミーティングでヒントを得ることができたことを確認し、自分たちなりのアイデアを改善していくことへの意欲を高める。 ロードマップ 今日の学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましょう。 ・ ロードマップの授業6ふりかえりを記入させる。	

アイデアミーティングの進行

アイデアミーティングは、ねらいに合わせて大きく以下の2つのパートに分かれます。

- ①自分たちなりのアイデアを伝える。
- ②企業・団体のSDGs達成に向けた取組を聞く。

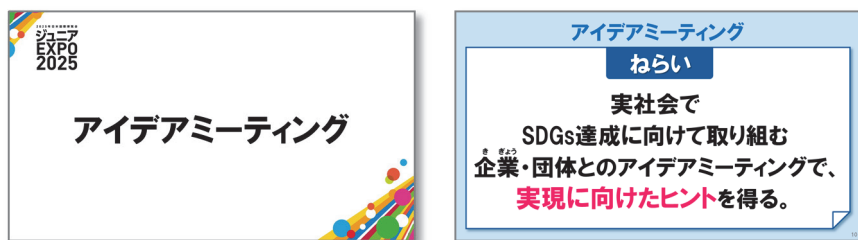
生徒は、「自分たちなりのアイデアを伝えたい」と考えていると推測されますので、①自分たちなりのアイデアを伝えるパートを先にしています。

また、それぞれのグループに重複するアドバイスや、事前に受けた質問などは、②企業・団体のSDGs達成に向けた取組を聞くパートでまとめて聞くことができるようにするとよいでしょう。

■スライド教材

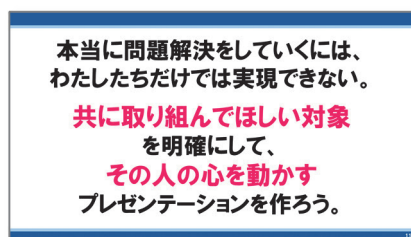
●アイデアミーティングのねらい

- ・意欲を高め、ねらいを共通理解するためにお使いください。



●まとめ

- ・アイデアミーティングを終えた後、これから自分たちなりのアイデアをさらに高めていく視点「共に取り組んでほしい対象の心を動かす」について説明する際、お使いください。



■生徒用読本 授業 6



ほかのグループのアイデアに対するアドバイスもメモさせ、貴重な機会を有効にいかし、「自分たちなりのアイデアに取り入れることができないか」考えさせるようにしましょう。

●アイデアミーティング記録用紙 PDFデータ

- ・学年の人数や発表方法に応じて出力してお使いください。



授業のねらい

- アイデアミーティングや、これまでの探究で得た情報を整理し、自分たちなりのSDGsアイデアを改善する。
- 発信する対象を明確にし、自分たちなりのSDGsアイデアを実現させるためのプランを考える。（SDGsアイデア共創プランを作る。）

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 5分	1.ねらいをとらえる	・ 前時のアイデアミーティングで、さまざまなヒントを得ることができたことをふりかえり、本時のねらいを伝える。	
	ねらい：協力してもらいたい人を明確にした、SDGsアイデア共創プランを考える。		
展開 40分	2.これまでの情報を整理する	・ アイデアミーティングの記録（メモ）を確認させ、ふりかえらせる。	・ これまでは、「叢智を集める」ステップだったが、これからは「アイデアを生む」ステップに進むことを伝えよう。
	🔍 問いかけ アイデアミーティングでは、どんなアイデアやヒントを得ることができたろう？		
	💡 ワーク これまで得た情報を整理し、自分たちなりのアイデアを、実現可能なプランにしていきましょう。		
	3.実現させるための共創プランシートを作る	・ これまで得た情報を書き出させ、アイデアを改善するために重要だと考えられるものを判断させる。	
	🔍 問いかけ どんな人に協力してもらい、どのように共に取り組むことで、そのプランは実現できるだろう？		
	💡 ワーク 共に取り組んでほしい人を想定したプランを作り、提案したい相手を明確にしたSDGsアイデア共創プランシートを書きましょう。		
		・ 整理した情報、有効だと考えたヒントを活用して、自分たちなりのアイデアを改善する。 ・ アイデアを実現させるために、協力してもらいたい人、企業・団体を書き出させ、提案する対象を設定させる。 ・ 「提案したい相手（共に取り組んでほしい人）」を設定し、「協力してほしいこと」を考えるなど、実現させるためのプランを作り、SDGsアイデア共創プランシートを書く。	★プログラムのヒント ・ 本プログラムでは、「地域でのジュニアEXPOで実際に提案すること」をめざしてアイデアを考えていく。 そのため、ここでは「提案したい相手（共に取り組んでほしい人）」を地域の人や、地域の企業・団体から設定させるとよい。
まとめ 5分	4.まとめとふりかえり	・ 授業をまとめる。	
	🔄 ふりかえり どのようなSDGsアイデア共創プランができたろう？		
		・ 共に取り組んでほしい相手と内容が明確になったことを確認し、次時のプレゼンテーション作成への意欲を高める。	
	📌 ロードマップ 今日の学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましょう。		
		・ ロードマップの授業7ふりかえりを記入させる。	

■ 生徒用読本 授業 7

アイデアミーティングで聞いた内容をもとに、自分たちなりのアイデアをさらに深めていきます。

授業 7 実現させるためには、誰と、どのように協力すればよいのだろう？

ここからは、ジュニアEXPOに向け、未来社会クリエイターとして「すべてのいのち輝く未来社会」を創るためのSDGsアイデア共創プランを作っていきます。

これまでの情報を整理して具体的なプランを立てていきましょう。

アイデアミーティングで学んだ、「どのように進めようか」、「誰とどのように協力するか」、「共に創る＝共創（プラン）」を考えましょう！

これまでの情報整理

自分たちなりのSDGsアイデアを、より現実性・実現性の高いものへと深めていきましょう。

- 自分たちなりのアイデアに対してもらったアドバイス
- ほかのグループへのアドバイスなどで、参考にできそうなこと

POINT
取り残さない未来に向けた「共創」だからこそ実現するアイデアは？

企業・団体の方の話を聞き、参考にできそうなこと

自分たちなりのアイデアを実現させるために、協力してもらいたい人・企業・団体

実際に、提案したいと思う人・企業・団体を選び、プランを作ろう！

SDGsアイデア共創プランシート

グループメンバー

- 自分たちが設定した課題（解決しなければならぬ課題）
- 解決したいのち
- 自分たちなりの「すべてのいのち輝くSDGsアイデア」
- アイデアの具体的な内容
- 関連するゴール
- アイデアを提案する相手（実現するために協力してもらいたい人・企業・団体）
- その人・企業・団体に協力してもらいたいこと
- なぜその人・企業・団体が（理由）

本プログラムの特長は、「地域でのジュニアEXPOで実際に提案する」ことをめざしてアイデアを考えていくことです。（各学校から代表生徒を選抜していただくことを想定しています。）生徒にとって重要なのは「本当に提案する、というリアルな学びの場」であることです。「誰に対して提案するのか」を明確にした、共創プランを考えさせましょう。

● SDGsアイデア共創プランシート PDFデータ

- 生徒用読本に記入させるのではなく、提出用ワークシートとして別紙で準備したり、グループワークをさせたりする場合などは、出力してご利用ください。



授業のねらい

- ストーリーボード（プレゼンテーションの下書き）を使って構成や表現を検討し、伝える相手の心を動かすプレゼンテーションを考える。
- ★本プログラムの単元計画（全10授業）では、ストーリーボードの検討までとしている。
技術・家庭科の授業と連動させるなどして、プレゼンテーションソフトを使って仕上げることもできる。

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 5分	1.ねらいをとらえる	・前時では、提案したい相手（共に取り組んでほしい人）と内容を明確にしたプランを考えることができたことをふりかえり、本時のねらいを伝える。	
	ねらい：伝える相手の心を「共創」へと動かすプレゼンテーションを考える。		
展開 40分	2.ストーリーボードで構成や表現を検討する	？ 問いかけ 提案したい相手（共に取り組んでほしい人）の心を動かすには、どのようなプレゼンテーションにすべきだろう？ 🔧 ワーク ストーリーボードを使って、プレゼンテーションを考えましょう。 ・生徒用読本P.33～34を活用し、5コマのストーリーボードで、プレゼンテーションの構成や表現を検討させる。 ・シナリオとジェスチャーやしかけを考えさせる。	★プログラムのヒント ・授業9の中学校EXPOでは、プレゼンテーションソフトを使ってもよいし、4つ切り画用紙5枚で紙芝居形式で発表させるなど、さまざまな方法を工夫するとよい。 ※ジュニアEXPO（代表者）は、プレゼンテーションソフトによる作成をお願いします。 ★カリキュラム・マネジメント ・技術・家庭科（情報の技術）の学習と連動させるとよい。
まとめ 5分	3.まとめとふりかえり	・授業をまとめる。 🔄 ふりかえり 効果的に伝えるために、どんな工夫ができただろう？ ・対象を意識して考えると、「何を伝えるのか」という内容も焦点化してくることを確認する。 ・伝える相手の心を動かすためには、伝えたい内容だけでなく、伝えるための工夫が大切であることを確認し、次時の中学校EXPOではどのように伝わるのか検証できることを伝え、中学校EXPOへの意欲を高める。 🗺️ ロードマップ 今日の学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましょう。 ・ロードマップの授業8ふりかえりを記入させる。	・中学校EXPOでは、それぞれが「誰を対象にプレゼンテーションしているのか」を明確にして発表させ、お互いに提案される人の立場で聞きあう。

■ 生徒用読本 授業 8

各学校での中学校EXPOでは、プレゼンテーションを聞くのは中学生になりますが、それぞれが「誰を対象にプレゼンテーションしているのか」を明確にして発表させると共に、お互いに提案される人の立場で聞かせましょう。
相手に応じて「伝える」ことだけでなく、さまざまな立場から考える経験にもつながります。

授業 8

伝える相手の心を「共創」へと動かすプレゼンテーションとは？

● 共に取り組んでほしい人の心を動かすプレゼンテーション

● 5枚のストーリーボードを使って、伝える情報と順番を整理しよう。

● それぞれのボードで何をどうやって伝えるか、シナリオと伝えるための工夫を考えよう。

提案する相手の心に響き、「いつしよにやりたい」と思ってもらえるには、どのようなことを伝えたらよいのだろうか？

自分たちのアイデアと図ナシでもらいたい内容ほもちろん、世界の課題や現状なども入れたいな。

【ストーリーボードとは】

ストーリーを構想するための下書き。プレゼンテーションの流れ・画面・タイトルや挿入する図・グラフの活用などを考え、イメージを具体的に可視化して構想する。

すぐにプレゼンテーションソフトで作成するよりも、下書きとしてイメージを書き出すことで、よりよいものへと検討するときに役立つ。

わたしたちは.....に対して提案します。

	ストーリーボード	シナリオ	発表の工夫 (ジェスチャーやしかけ)
1			
2			
3			
4			
5			

30

授業の
ねらい

- 自分たちの提案を、「提案される対象者の立場」で聞いてもらいフィードバックを得ることで、プレゼンテーションの改善の視点を得る。
 - さまざまなグループの発表を聞くことで、「“すべての”いのち輝く未来社会」を創るさまざまなアプローチを知る。
- ★本プログラムの単元計画（全10授業）では、本時の中学校EXPOの後、最終授業10でまとめとなる。
しかし、もう少し時数を充当することができる場合は、本時を改善のための発表会として位置づけ、「伝わり方を検証する」という目的意識をもたせ、その後の改善につなげるとよい。

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 5分	1.ねらいをとらえる	・前時では、対象を明確にし、相手を動機づけるプレゼンテーションの準備ができたことをふりかえり、本時のねらいを伝える。	・本時は50分に限定するものではないので、各学校の計画に合わせて調整してよい。 授業参観に合わせるなど外部の大人の聴講も効果的な実施につながる。 ・スライド教材を活用するとよい。
展開 40分	2.中学校EXPOを開催する	ねらい：自分たちで中学校EXPOを開催し、「“すべての”いのち輝く未来社会」に向けて考えを交流する。 ？ 問いかけ ほかのグループは、どのようなアイデアを考えたのだろう？ ！ ワーク 「“すべての”いのち輝く未来社会」のために、共に考えましょう。 ・中学校EXPO 進行例（中学校EXPO40分の場合） ①各グループのプレゼンテーション 5分 +参加者からのフィードバック 5分 ※10分×3グループで30分 ②中学校EXPOのふりかえり 10分	★プログラムのヒント ・それぞれのプレゼンテーションは、提案したい相手（共に取り組んでほしい人）を設定しているので、聞く側の生徒には <u>その立場になって</u> 聞かせ、「だったら～」とアドバイスをさせるとよい。
まとめ 5分	3.まとめとふりかえり	・授業をまとめる。 🔄 ふりかえり ほかのグループの発表を聞いて、心に残ったことは？ ・仲間もさまざまな他者と「共に未来を創りたい」と考えていたことを確認し、2025年大阪・関西万博がめざす「共創」を実感させ、価値づける。 🗺 ロードマップ 今日の学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましょう。 ・ロードマップの授業9ふりかえりを記入させる。	

アイデアを否定しない

価値観が多様化し、驚くべき速度で技術革新が進む現代社会において、これまで実現不可能であったアイデアが社会を変えたり、今のわたしたちの当たり前の生活を支えたりするようになっています。

今回、生徒たちが挑戦するのは、実社会の大人たちでさえ解を見出すことができていない複雑で困難な問題です。

ですから、一見稚拙に見えたり突拍子もなく思えたりするアイデアを否定することはできません。

それよりも、**多感なこの時期に、自分自身で「誰一人取り残さない」「“すべての”いのち輝く未来社会」を思いえがき、アイデアを出したこと**自体を大いに評価しましょう。

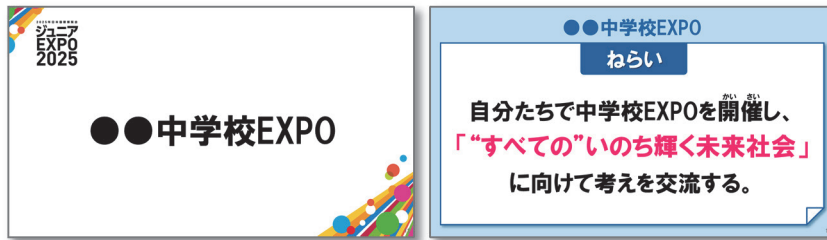


提供：経済産業省

■ スライド教材

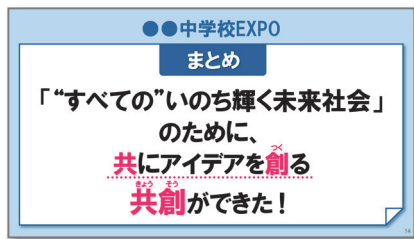
● 中学校EXPOのねらい

- ・意欲を高め、ねらいを共通理解するためにお使いください。



● まとめ

- ・中学校EXPOの後、「自分たちで、さまざまなアイデアを出しあって、考えを交流することができた」ことを価値づけする際、お使いください。

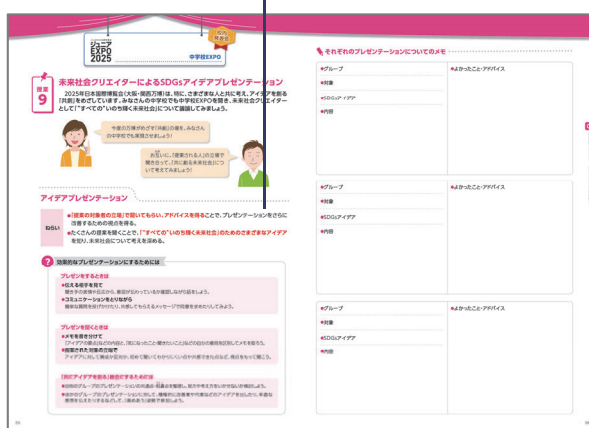


生徒用読本には、「考えを交流する」ために、次のようなねらいを提示しています。

- 「**提案の対象者の立場**」で聞いてもらい、**アドバイスを**得ることで、プレゼンテーションをさらに改善するための視点を得る。
- たくさんの提案を聞くことで、「**“すべての”いのち輝く未来社会**」のための**さまざまなアイデア**を知り、未来社会について考えを深める。

■ 生徒用読本 授業 9

中学校EXPOのねらいとして、「他者からアドバイスをもらうことで、さらに改善する視点を得る」を第一にしています。

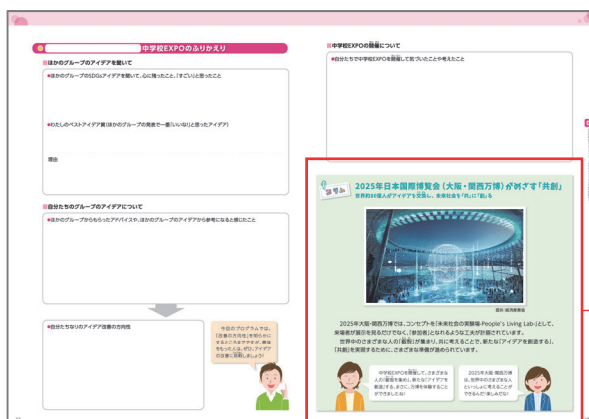


！ ポイント

生徒に発表させる際には、「わたしたちが対象としているのは～さんたちです。みなさん、～さんになったつもりで聞いてください。」など対象を明確にして発表したり、聞いたりできるようにしましょう。

● 中学校EXPO記録用紙 PDFデータ

- ・学年の人数や発表方法に応じて出力してご利用ください。



自分たちの中学校EXPOをふりかえって記入させます。さまざまな考えを交流し、「共に考える場」を創ることができたことを、自分の言葉で言語化させましょう。

もし、プレゼンテーションを改善する時間の確保ができなくても、「改善の方向性」を考えるだけで、「共にアイデアを創る」学びに高めることができます。

！ ポイント

自分たちが、中学校EXPOを経験したからこそ、2025年大阪・関西万博がめざす「共創」の意味と価値を実感させることにつながります。

授業 10 「“すべての”いのち輝く未来社会」のために大切にしたいことは？

授業のねらい

- これまでの学びをふりかえり、これからの未来社会を担う者として、「“すべての”いのち輝く未来社会」を創るために、自分自身が大切にしていきたいことや、挑戦したいことを言語化し、決意を固める。

時間	学習内容・活動	教員の支援	指導上の留意点
導入 5分	1.ねらいをとらえる	・前時は、校内で中学校EXPOを開催し、「“すべての”いのち輝く未来社会」について考えることができたことをふりかえり、本時のねらいを伝える。	・プログラムの最終まとめ、生徒用読本3章(03)は、「“すべての”いのち輝く未来社会」のために。 問いは、<u>わたしたちは、どのような未来を創ることができるのだろうか？</u>
展開 ① 20分	2.単元の探究をふりかえる	・前時に提案できたことや、仲間からもらったアドバイスなど、自分たちで中学校EXPOを開催してよかったと思うことなどをふりかえらせる。	・自分たちの学習に対して価値づけをし、自己肯定感・自己効力感を高めてから、決意につなぐ。
	❓ 問いかけ SDGsアイデアプレゼンテーション作りをふりかえってみよう。 あなたは、何をどのように考えてきたのだろう？		
	🔧 ワーク 「共にアイデアを創る」活動を通して、気づいたことや考えたことを書きましょう。		
		・単元全体のふりかえりを書かせる。グループや全体で共有し、「共にアイデアを創る」ことができたことを価値づける。 ・改めて、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催されることを確認する。	★プログラムのヒント ・ロードマップとして記録させてきた各授業のふりかえりを俯瞰させることで、自分の考えの広がりや深まりに自分自身で気づかせる。
	❓ 問いかけ あなたは、2025年大阪・関西万博にどんなことを期待する？		
	🔧 ワーク 2025年大阪・関西万博に期待することを書きましょう。		
		・自分たちが「共に考えてきた」ように、2025年大阪・関西万博では世界中のさまざまな人と「共に考える」場であることを確認し、2025年大阪・関西万博への期待を書かせる。	・万博を、ただのイベントではなく「未来社会について考える場」としてとらえるようになっているか、意識変容（評価）を確認する。
展開 ② 20分	3.未来社会を創る自分の決意を固める	・単元の最後に、一人一人の決意を書かせる。	
	❓ 問いかけ 「誰一人取り残さない」「“すべての”いのち輝く未来社会」に向けて、自分は何をしていくべきだろう？		
	🔧 ワーク 未来社会クリエイターとしてのこれまでの活動をふりかえって、考えを書きましょう。		
		・グループや全体で共有し、一人一人が行動していくことが、「誰一人取り残さない」「“すべての”いのち輝く未来社会」につながることを伝える。	
まとめ 5分	4.まとめとふりかえり	・単元をふりかえらせ、自分たちが考え抜いたことを評価し、これからの未来社会を担う人材としての期待を伝える。	
	🗺️ ロードマップ この学習で、わかったこと、心に残ったことを書きましょう。		
		・ロードマップの授業10ふりかえりを記入させる。	

■ 生徒用読本 授業10

グループでの活動はもちろん、アイデアミーティングや校内での中学校EXPOを通して、どのように考えが広がったり深まったりしたかをふりかえって言語化させます。

！ ポイント

単元を通じた自分の考えの広がりや深まりを、生徒自身に気づかせるため、ロードマップをふりかえらせるとよいでしょう。

03 「“すべての”いのち輝く未来社会」のために
わたしたちは、どのような未来を創ることができるだろうか？

授業
10

「“すべての”いのち輝く未来社会」のために
大切にしたいことは？

2025年日本国連博覧会（大阪・関西万博）がめざす、「すべての”いのち輝く未来社会」のために、共に考え、アイデアを創る「共創」。

みなさんは、未来社会クリエイターとして、どのように考え、自分たちのアイデアを創ることができたでしょうか。

④ 未来社会を創るわたしの決意

●中学校EXPOで話し合った自分たちのSDGsアイデアでこれから挑戦したいと思ったこと

●「すべての”いのち輝く未来社会」のために、未来社会クリエイターとして、自分が大切にしていきたいことや挑戦したいこと

⑤ ふりかえり

●中学校EXPOでの発表に向けた、「共にアイデアを創る」活動を通して、気づいたことや考えたこと

※13～14のロードマップをふりかえってみよう。どんなことに気づいたり、考えが広がったりしたかな？

このプログラムで、みんなが経験したように、知識と自分たちの考えを合わせて「すべての”いのち輝く未来社会」を実現させよう！

●2025年大阪・関西万博に向けた期待

みなさんが考えた、「すべての”いのち輝く未来社会」SDGsアイデア。そのどれもが、これからの未来を創るために不可欠な考えです。

2025年大阪・関西万博では、たくさんの人が「誰一人取り残さない未来社会」の実現に向けてさまざまな奮闘を結果し、未来を共創していく機会になることを願っています。

学習のまとめとして、「誰一人取り残さない」「“すべての”いのち輝く未来社会」のために、未来社会クリエイターとして自分は何をするのか、具体的な行動目標を言語化させます。

プログラム後の展開のヒント

本プログラムは、中学校全学年を対象にしています。

本プログラムの全10授業で大切にしてきた「誰一人取り残さない」「“すべての”いのち輝く未来社会」は、授業にとどまるものではなく、教育活動全体を通して生徒に伝えたい重要な考え方です。

例えば、生徒会活動（委員会活動）や、学校行事、卒業に向けてのアクションなど、生徒が実際の行動を通して、学んだことを具現化する活動につなげていくなど、教育課程全体を通じたカリキュラム・マネジメントをしていくとよいでしょう。

■ 参考WEBサイト

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

- 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）についての最新情報、詳細を掲載している公式サイト。テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」や、SDGsとの関連、開催までのさまざまな活動について調べることができる。

<https://www.expo2025.or.jp/>

経済産業省 国際博覧会

- 今後開催予定の博覧会、過去に開催した博覧会など、日本・世界の博覧会について掲載しているWEBサイト。「万博豆知識」や、「万博ことはじめ」、日本で開催された過去の国際博覧会について（リンク集）などを掲載している。

<https://www.meti.go.jp/policy/exhibition/index.html>

外務省 JAPAN SDGs Action Platform

- SDGsに関連した取組を幅広く紹介することを目的にしたWEBサイト。「SDGsとは?」、「日本政府の取組」、「取組事例」そして、「ジャパンSDGsアワード」について掲載。生徒用読本に掲載しきれなかった事例など、さまざまな情報を調べることができる。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/SDGs/index.html>

独立行政法人国際協力機構（JICA）地球ひろば

- 子どもたちが、世界の現状や課題、国際協力などについて知り、考え、自分たちにできることを探するために活用できる教材を掲載している。フォトランゲージワークの、「世界の課題を考える写真」で使える素材など、さまざまなコンテンツを無料で使用することができる。

<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/index.html>

公益財団法人日本ユニセフ協会 教えて！ユニセフ 子どもと先生の広場

- ユニセフや世界の子どもたちの暮らしについて、子どもたちが知り、自分にできることを考え行動していくためのさまざまな情報を掲載しているウェブサイト。子どもたちがSDGsについて学べる特設ページ「SDGs CLUB」では、SDGsの目的やつくられるまでの歴史、17の目標の背景にある課題の解説など、さまざまなコンテンツがあり、無料で使用することができる。

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/>

未来を担う子どもたちに
SDGsを理解し、
自分たちなりの問題解決策を考えてほしい、
そして、「共創」する資質・能力を身につけてほしい
という思いを込めた本プログラムは
いかがだったでしょうか。

このプログラムで学んだ子どもたちと、先生方と、
これからの未来社会を
共に創造したいと願っています。

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

●官公庁関係

大阪府
経済産業省
持続可能な開発目標（SDGs）推進本部

（協力）
大阪府教育庁

●参考図書・ホームページ、写真・映像協力

イオン九州株式会社
NTT技術史料館
株式会社大林組
鹿島建設株式会社
国谷裕子監修 「国谷裕子と考えるSDGsがわかる本」 文溪堂
独立行政法人国際協力機構
公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
国立国会図書館
在日米国大使館 「在日米国大使館公式マガジン アメリカン・ビュー」
サライヤ株式会社
住友電気工業株式会社
住友林業株式会社
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
一般財団法人地球産業文化研究所
公益財団法人つくば科学万博記念財団
東海旅客鉄道株式会社
一般財団法人日本国際飢餓対策機構
公益財団法人日本ユニセフ協会
株式会社乃村工藝社
パナソニック株式会社
ビクスタ株式会社
藤井秀雄
株式会社富士メガネ
二神敦
毎日新聞社
読売新聞社
株式会社LIXIL

（監修）
伊藤武志（大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ 教授）
田和正裕（大阪大学 グローバルイニシアティブ・センター 特任教授）
堂目卓生（大阪大学大学院 経済学研究科教授／社会ソリューションイニシアティブ長）
草郷孝好（関西大学 社会学部教授）

万博学習読本 中学校版 教員用指導書

2021年9月30日

発行：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

〒559-0034 大阪市住之江区南港北1丁目14-16（大阪府咲洲庁舎43階）

TEL：06-6625-8651

編集協力：大日本印刷株式会社 株式会社キャリアリンク

印刷：大日本印刷株式会社

